

キンボール(KIN-BALL)

キンボールは、1986年カナダの体育学士が考案した。(カナダ国民が、寒い冬でも元気一杯に声を出し、皆が協力して運動できるものとして)

1997年、日本にも紹介される。

コート

コートの大きさは15m~21m×15m~21mとする。

境界線としてラインをひく。

チーム

チームの最大登録人数は12人。ただし、ゲームは1チーム4人、3チーム計12人で行う。交替はサーブやレシーブの失敗・反則が行われたときにコーチの指示によって何回もできる。

ルール

1. ピンク、ブラック、グレーの3チームで競う。
あらかじめ各チームごとにチームカラーを示すゼッケンを着用しておく。
2. 日本では各チームのキャプテンがじゃんけんをし、勝ったチームがサーブ権を得る。
3. 試合の開始は審判の合図(笛)により開始とする。
4. コートの中央でサーブチームの3名(サーバー以外の全員)がボールを支え、残り1名がサーブ(手または腕のみ使用可)する。サーブするチーム以外守備につく。
5. サーブはサーブチームの1名が、※必ず「オムニキン」と言い、続いて「レシーブチームの色」をサーブ前に大きな声でコールしてからサーブする。
※必ずしもサーバーが言う必要はない。オムニキンと色は別々の人がコールしても良い。但しそのつど必ず1名のみとする。
6. サーブされたボールは指定された色のチームが床に落ちる前にレシーブ(全身使用可)する。
7. レシーブした後、ボールを持って走ることもチームメイトにパスすることもできる。
8. サーブ・レシーブに失敗すると、失敗したチーム以外の2チームに1点ずつが加算される。
9. その後のゲーム再開は、レシーブの失敗や反則をしたチームがレシーブの失敗や反則を犯したところから(2mの範囲内で)サーブして再開。
10. ゲーム途中でもセット終了のタイムキーパーからの合図でセット終了。
11. 第2セット、第3セットスタート時は前のセットまでで最も得点の低いチームが、サーブ権を得る。同点の場合は日本ではじゃんけんで決める。
12. 10と同様にゲーム終了。

その他反則

<サーブ時>

- ・サーブの瞬間、味方のメンバー全員ボールに触れていなければならない。
- ・1人のプレーヤーが続けて2回サーブできない。
- ・サーブは床と水平以上の角度でボールの直径の1.5倍、1.8m以上飛ばさなければならない。
- ・審判にも聞こえない小さなコールの場合。
- ・サーブ時のサーバー以外のメンバーがコートの外に出てはならない。(3名中の1名の片足はO.K.)

<レシーブ時>

- ・レシーブした後、ボールを持って走ることもチームメイトにパスすることもできるが、3人目がボールに触れたらその場から動かすことはできない。
- ・1人目がレシーブのためにボールに触れてから、10秒以内に3人目がボールに触れなければならない。
- ・レシーブするチームの3人目がボールに触れた後は、5秒以内にサーブしなければならない。
- ・ボールを両腕で抱え込んで持つてはならない。
- ・カバーの口の部分をつかんではいならない。
- ・レシーブの瞬間、コートの外に出てはならない。
- ・上記反則を犯した場合、他の2チームに1点が与えられる。

<チーム(コーチを含む)がアスリートらしくない行為をした時(故意に行う妨害、暴言、暴力など)>

- ・最初の警告の場合、他の2チームに1点が与えられる。
- ・個人的な警告を2回受けた場合その個人は退場となる。交代選手を入れて続けるが、控えの選手がいない場合は3人でゲームを行なう。
- ・個人に対する警告も含めチームとして2回目から4回目の警告の場合、他の2チームに5点が与えられる。
- ・5回目の警告を受けた場合、チームが退場、2チームでゲームをする。

補 足

選手交代は何回でも自由にできる(ただし、ゲームの中断時に限る)が、どんな時でもコートにいるのは1チーム4名でなければならない。5名以上コートにいた場合、反則となる。

勝 敗

1セットの競技時間※15分とし、休憩時間3分をはさみ3セット行い、3セットの総得点で競う。

ただし、申し合わせ事項として、参加者の身体条件や年齢、経験の有無、1チームの登録人数が少ない場合などを考慮し各セットを自由に設定してよい。